

# 令和元年度 決算審査特別委員会 報告資料

## 【決算審査特別委員会】

市長および公営企業管理者から提出された一般会計、特別会計および公営企業会計の決算書等の計数が正確であるか、あるいは予算の執行または各事業の経営等が適正かつ効果的に行われているかなどを審査するための委員会で、留萌市議会では、第3回定例会の休会中に全議員にて審査することとしている。

9月9日から10日まで決算審査特別委員会を開催しました

決算審査の主な質疑内容（抜粋）

令和元年度の一般会計の決算状況は、歳入が137億5,351万5千円に対し、歳出が134億6,140万2千円で翌年度に繰り越す財源104万2千円を控除した実質収支額は2億9,107万1千円の黒字となった。

しかし、財政調整基金には、1億812万2千円を積み立てた一方、3億4,240万6千円を繰り入れたことで残高が2億3,428万4千円減少し、10億8,574万9千円となり、目標としている標準財政規模の20%を下回る残高となるほか、財政運営の安定化を図るために平成17年度に借入を実施した、公的資金借換債の償還の最終年度にあたる令和2年度について、減債基金3億3,703万1千円を活用し繰上償還の実施を行った。

今後も厳しい財政状況が見込まれることから、収支不足に対する財政調整基金の繰り入れを最小限にとどめ、緊張感を持ちながら、より一層検算で持続可能な財政運営に向けた取り組みをすすめていくことが望まれる。

Q	地域おこし協力隊の費用が予算より少ないのは	Q	病児保育運用開始から1年。登録者数と利用人数は
A	当初4人の募集を想定していたが、結果的にゼロだったためである。	A	登録者数は60人、平均に29人の利用があった。当日利用も可能にしたので利用が拡大している。
Q	自主防災組織の助成を受けた団体数と活動内容について	Q	留萌南部地域広域観光連携協議会の負担金について
A	令和元年度は60団体中49団体が助成を受けた。マップ作りや自主的な防災訓練、備蓄品の整備などが行われた。	A	道の負担金で平成29年度から3年間取り組んだ。事業は5年間組んでいるので、規模は縮小するが実施していく。
Q	ふるさと応援支援事業で2億1,000万の寄付をいただいたが、次年度の目標は	Q	クリーンステーション整備事業について
A	385%伸びたので、さらにのびたい。リピーターを増やすため地元企業の理解と協力で、返礼品の訴求力を高めていく。	A	腐食が激しく、修繕不可能なごみステーションを約5年かけて順次整備。さびに強い亜鉛メッキにすることでペンキ塗りなど町内会の負担を軽減したい。
Q	若者によるマチづくり推進事業のセミナーで、どの程度達成できたか	Q	市営墓地の墓じまいが増えている。現在の区画の利用と合同墓の状況は
A	若者の意見を聴く中で、新たな繋がりを生み出すことが重要だと分かった。今後のアプローチについて考えたい。	A	1,934区画中、年間10件以上の返還があり、現在は1,849区画が利用中である。合同墓は43件、103体の納骨数である。
Q	他のマチのホームページには移住・定住に関するコーナーがある。市も手を打ってはどうか	Q	空き店舗活用助成金について
A	今年度、公開の準備を進めている。どのような移住施策や他の施策との組み合わせについて検討したい。	A	4件の助成金の活用申請があった。活用実績が近年増加しており、中心街の活性化に寄与している。
Q	子ども発達支援センターの課題について	Q	教育委員会運営事業の課題は
A	利用する子どもが増えている。待たせることなく利用させたい。職員の質の向上と地域のニーズに応える体制づくりに努めたい。	A	主なものは教員の働き方改革と新型コロナウイルス感染症対策である。

令和2年度市民と議会の意見交換会